

校園名： **東京学芸大学附属特別支援学校**

所在地： 〒203-0004 東京都東久留米市氷川台 1-6-1

Tel 042-471-5274 Fax 042-471-5275

記載日： 平成28年5月20日 記載者：小金井俊夫 記載者役職：副校長

東京学芸大学附属特別支援学校 「生涯発達支援学校として」

教育支援

- ◆ 個別の教育的ニーズ支援システムを基軸とした教育支援

地域貢献 インクルーシブ 教育

- ◆ 相談部の活動
- ◆ 幼児就学支援事業
- ◆ 地域の保育園との連携

発達障害支援

- ◆ 生涯発達支援の担い手としての若竹会

実践研究 社会貢献

- ◆ 主体的、協働的な学びをはぐくむ支援の検討
- ◆ ICTの教育的活用
- ◆ 社会で生きるために必要な力の育成（金融教育）
- ◆ 教員、保育者のための公開講座

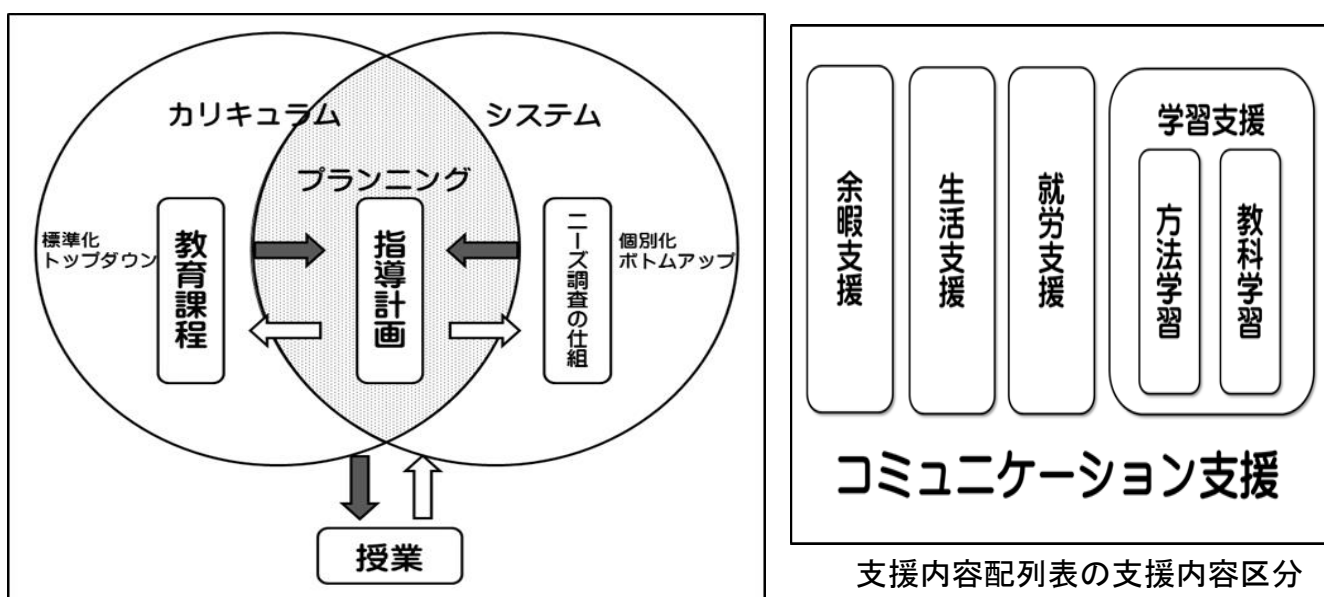
次世代育成

- ◆ 未来の学校、未来の教育に向けての検討

教育支援

◆個別の教育的ニーズ支援システムを基軸とした教育支援

本校の教育は、保護者とともにつくる「個別教育計画」と本校独自の5つの支援区分を有する「支援内容配列表（教育課程）」との連関により指導計画を作成していくという個別の教育的ニーズ支援システムで成り立っています。「個別教育計画」は「総合支援シート（教育支援計画）」と「教育支援シート（個別の指導計画）」があり、それぞれが保護者のニーズを主体として作成されています。「支援内容配列表」は、生活支援、学習支援、就労支援、余暇支援、コミュニケーション支援の5つの支援内容区分を持ち、それぞれの支援内容区分における構成要素と子どもライフステージでの大まかな達成目標を定めたものです。本校ではこの2つの観点から指導計画を作成し、日々の教育実践にあたっています。



個別の教育的ニーズ支援システム

地域貢献

◆相談部の活動 ◆幼児就学支援事業 ◆地域の保育園との連携

相談部の活動 — 発達障害相談と地域巡回活動 —

本校は幼稚部から高等部まである知的障害の特別支援学校ですが、1994年度より東京学芸大学と連携して発達障害相談室を設置し地域の乳幼児の相談を受け、現在は相談部を中心に地域支援を行っています。相談件数は年間200件を超え、100件程度の巡回相談を行っています。

プレ学校体験と懇談会で特別支援学校が地域を支援する

—さらさらグループの就学支援の取り組み（幼児就学支援事業）—

さらさらグループ（幼児就学支援事業）は、月に一度、地域の保育所・幼稚園在籍の年長幼児8名が保護者と通ってきます。このグループは2004年に誕生し今年で13年目、グ

ループ修了生たちは80名を超え、約8割が地域の通常の学級で学んでいます。このグループは、幼稚園・保育園で「友だちとうまく遊べない」「個別に伝えればわかるのにみんなの中では先生の話がよくわからない」など支援を必要とする年長児（5歳児）を対象とした小グループの活動です。楽しいゲーム遊び等を通して人と関わる経験を増やし社会性を育てることを目的にしています。全員が年長児なのでお子さんたち、保護者の方たち双方に就学に向けたプログラム（プレ学校体験など）を準備しています。子どもたちには、おはなしタイム（小学校のホームルーム活動を少人数で、プレ学校体験）、みんなゲーム（ボーリングやかいものゲームなど）などの活動をしています。おやつタイムもあります。保護者にはいろいろとおしゃべりできる茶話会があります（就学について勉強会・情報交換）。小学校就学後、相談部によるアフターサポートも行っています。



地域の保育園とつながって交流保育30年

幼稚部は1975年に開設されましたが、その当時から近隣の幼稚園や保育園に出かけ、交流保育を行ってきました。1984年より年間を通して週の一日を充てるようになり、幼稚部の幼児は週の4日間は特別支援学校で過ごし、小集団や個別の指導形態の中で「専門的な療育」を受け、週の1日は保育園に登園して、大勢の子どもたちと「一緒に保育」を経験しています。この「専門的な療育」と「一緒に保育」の二つを連動させながら進めているのが本校のインクルージョン保育です。幼稚部で身につけた力が保育園でも発揮できるようにしていく、また、保育園の活動の中で興味を示したことを学校に持ち帰り、じっくり育てていくというように、子どものニーズに応じた保育を展開しています。



生涯発達支援

◆生涯発達支援の担い手としての若竹会

本校の「生涯発達支援学校」としての役割に大きく関係しているのが若竹会です。若竹会は、1959年に設立され、本校とともに歩んできた卒業生、在校生を含む本校関係者すべてが参加している会です。その活動は同窓会や新年会の開催のほか、日帰り旅行やバーベキューなどの行事、また、同好会活動も数種類にわたって行われています。保護者を含めた活動の中には若竹ミュージカルがあり、毎年講演を行っており、その範囲は全国にわたります。そのほか、卒業生のサポート事業として相談活動およびリストラ等の離職者等を対象とした作業活動を行うなど様々な面で卒業生の生涯にわたる支援に関係しています。



実践研究 社会貢献

- ◆主体的、協働的な学びをはぐくむ支援の検討
- ◆ICTの教育的活用
- ◆社会で生きるために必要な力の育成（金融教育研究）
- ◆教員、保育者のための公開講座

主体的、協働的な学びをはぐくむ支援の検討

いろいろな知見や大学との協力の下に教育実践研究を行い、それを地域や社会に返していくことは附属学校の大いなる使命です。本校では、昨年度より「主体的・協働的な学びを育む支援」をテーマに、学校全体で研究を進めています。これはアクティブラーニング等と呼ばれる学習の仕方やその内容に関わる研究です。昨年は「ICTの活用」をサブテーマに研究報告を行いました。そこでは、幼児、児童の共感性の発達を促すICTの活用、自分の行動の確認や振り返り学習でのICTの活用などについて実践報告を行いました。

ICTの教育的活用

上記とは別に文部科学省の研究助成を受け、東京学芸大学との共同研究で、タブレット端末を利用した読み書き学習支援のプログラムの開発も行ってきました。こちらは読み書き学習のためのパンフレットを作成するとともに、読み書き学習支援プログラムをWEB上で公開し、その成果を発表しています。実際のプログラムについては下記を参照してください。

<http://sne-gakugei.jp/teaching/user/koik/201305231005.html>

社会で生きるために必要な力の育成（金融教育研究）

東京学芸大学は、みずほフィナンシャルグループと「金融教育」の共同研究を行っています。本校もその研究に参加し、特別支援教育における金融教育の研究を行っています。その成果は、特別支援教育版金融教育テキスト「くらしとお金」として発行され、いろいろな場で学習用のテキストとして使用されています。

教員、保育者のための公開講座

本校では毎年、地域の教員、保育者のための公開講座を2件開催しています。一つはネットフォーラムです。これは東京学芸大学の先生方に協力いただき、現代的な課題をテーマとして、地域の教員、保育者向けに行っている公開講座です。もうひとつは保育関係者向けの幼児の発達支援に関わる公開講座です。どちらも10年以上続いている講座で、毎回好評を得ているものです。

次世代育成

- ◆未来の学校、未来の教育に向けての検討

社会における附属学校の役割は、①大学の研究に協力すること、②在籍する幼児児童生徒の教育をしっかり行うこと、③附属学校としての特色を生かした地域貢献活動をする事、④現代的、そして将来的な課題に関する教育実践研究を行い、広く発信していくこと、⑤次世代の教員養成にあたること、などと考えられます。特に⑤の教員養成に関する事は、「未来の学校、未来の教育」を作っていくためにとっても重要なことです。本校では、東京学芸大学の改革に合わせ、「未来の学校作り」、「未来の教育作り」のため、教育実習および教員養成に資するために、教育現場でどのようなことが必要とされ、またできるのかということについての検討を始めたところです。